

新 生

人情を 包んでくれる 雪景色



小富士

東北新生園入所者自治会

平成二十四年十二月二十日印刷
平成二十四年十二月二十日発行

新生第六十四巻 第四号

新 生

平成二十四年十二月二十日印刷
平成二十四年十二月二十日発行

第六十四巻 第四号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	266床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男47名 女57名 計104名
職員定員数	153名（平成24年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



園内日誌

平成二十四年 七月～九月

《七月》

十四日 第十四回花火大会
十八日 秋田県慰問
二十四日 茨城県慰問
二十六日 福島県慰問

《八月》

十四日 お盆行事（納涼抽選会）

《九月》

七日 楓会発会六十六周年慰霊祭
七日 栗原市教育研究協議会学校保健研究会
久保会長講演・フィールドワーク
敬老の集い
十四日 登米市新田中学校音楽交流会
十九日 第十四回寛仁親王妃杯女子コスモス
ゲートボール大会（三千五チーム参加）

平成二十四年七月～九月（敬称略）

【謝寄贈図書欄】

多磨	青松	菊池	高原	愛生	甲田の裾	駿河	始良
東京都	香川県	熊本県	群馬県	岡山県	青森県	静岡県	長野県
多磨	大島	菊池	栗生	長島	松丘	駿河	星塚
全生	青松	恵楓	泉生	愛生	保生	療養	敬愛
園	園	園	園	園	園	園	園

平成24年12月10日 印刷
平成24年12月20日 発行

発行所 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600

敬老の集い

（平成24年9月14日）



▲唄：山内弘枝さん



◀踊り・三味線：
たらさわかすみさん
三味線：織江響さん

秋田県赤十字芸能奉仕団慰問公演

（平成24年11月5日）





新生・第六十四巻第四号……………目次

表紙…「雪景色」……………桃生 小富士

景色……………看護師…岩 渕 敦 子…(2)
はじめまして……………看護師…千 葉 和 美…(3)
よろしく願います……………看護師…小野 寺 由 紀…(5)
随筆「互市の思い出」……………今 野 きよし…(7)
さらば昂よく牧実さんを送る……………理事社団法人好善社…川 崎 正 明…(10)

|| 新 生 文 芸 ||

短 歌……………選 者…長 田 雅 道…(16)
俳 句……………選 者…山 田 桃 晃…(17)
川 柳……………選 者…栗 石 隆 子…(19)
詩……………新生編集部自薦…(21)
よろしく願います……………看護助手…富 田 由 美…(22)
はじめまして……………看護師…今 野 信 子…(24)
随筆「孫とおばあさん」……………今 野 きよし…(26)
園内日誌・謝寄贈図書

景色

看護師 岩 渕 敦 子

原稿依頼があり、何を書いたら良いものか自己紹介するって言ってもこれと言ったものもなく迷いました。

私は、平成二十年八月から非常勤の看護師として東北新生園の入所者の方、スタッフの方々に縁あってお会いすることとなり、現在に至っております。

自宅は一関市にあり、世界遺産に登録された平泉にほど近くの四号線沿いにあります。距離的には三十五km程あり、当初は緊張と長距離で周りの景色も目に留まらず、ただただ、目的地東北新生園到着を考えていたように思います。

そこで、通勤途中に見て感じる四季折々の景色で楽しんで頂きたいと思い、書く事になりました。

春、ポカポカ陽気のお日様が菜の花や桜の花を優しく照らし、農家の人達が田畑の仕事を始め、時には急ぐ私の前をのんびりとトラクターが進み、田植えの季節を感じさせます。夏、容赦なくジリジリ照りつけるお日様が、私や木々の葉っぱ達にぐったり感を与え、早く西に傾き日暮れを待ちたい気分になります。秋、すすきやわれもこうが行きかう車の風にゆらゆらなびき、まるで手でも振っているかのように感じさせ、赤トンボが飛び、いよいよ見頃を迎える紅葉に「どこに行こうか」と考えながらの通勤。

冬、雪、凍結、白い、寒い、遠飛行を終えた渡り鳥をながめ「ごくろうさん」とひと言。こんな素晴らしい景色を見ながら通勤しています。

はじめまして

看護師 千 葉 和 美

ただ一つ景色が変わった事は、去年の東日本大震災で被災された方々の、持ち主に届く事のない車の山積みされた景色に、悲しい声が聞こえてくるような切ない気持ちになり、朝、夕に心の中で手を合わせております。今は急ぎながらも、周りの景色をながめ、一息ついたり深呼吸したりしながら、楽しむ余裕も出来ました。通勤途中、目に入る一番の楽しみは、東北新幹線のさっそうと走る姿に「ワァーカッコいい」と胸をおどらせることです。



皆さん、はじめまして。平成二十三年三月より東北新生園で勤務させて頂くことになった千葉和美です。三月から二ヶ月間は治療棟で勤務させて頂き、六月より山鳩センターでの勤務となりました。ハンセン病について、ほとんど分からない私に、皆さん親切に教えて下さり、山鳩センターでの勤務が約一年半になります。今でも教えて頂く事は多いのですが、入居者の方々と接する事がとても楽しい毎日です。

少し私の自己紹介をします。

私は岩手県一関市で生まれました。三人姉妹の次女で、小さい頃はよく三人で遊んでい

ました。私が小学生の頃は一学年約三百人、全校生徒は約千八百人と多く、マンモス校と呼ばれていました。今では子供の数が減り半分程度の人数しかいませんが…。

中学一年の時、体調を崩し数日入院するところがあつたのですが、初めての入院に不安で心細かった私に、看護師さんが優しく接して下さり、その頃から看護師になりたいと思うようになりました。

高校卒業後、岩手県盛岡市の看護学校へ入学し、一人暮らしをしながら三年間看護師になるための勉強をしました。その頃の私は、病院で実習中、患者さんとお話しする事がとても苦手で、どのようにすれば看護師さんのようにコミュニケーションが図れるのか悩んでいました。しかし、実習を何度も重ね、数多くの患者さんと接するうちに、気負わず自然と話せるようになり、無事に卒業、看護師としてスタートする事ができました。

看護学校卒業後は、岩手県北上市の総合病院に勤務し、その後地元一関へ戻って来ました。一関では老人保健施設で二年ほど勤務し、二人の子供を産んでからは訪問看護の仕事で六年ほどしております。

訪問看護の仕事をしてみて、病気を抱え在宅で過ごされている方の多さに驚きました。中でも難病を抱え過ごされている患者さんが多く、在宅で人工呼吸器を装着し生活されている方もいらっしゃいました。そのような患者さん方を看護させて頂くうちに、病院での看護との違いや介護の工夫など様々な事を学ばさせて頂きました。

自己紹介ばかり長々と書いてしまいました。が、少しでも私の事を知って頂けたらうれしいです。まだまだ未熟者ですが、皆さんに教えて頂きながら頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

よろしくお願いします

看護師 小野寺 由紀

昨年の十二月一日より、国立療養所東北新生園に勤務しております、看護師の小野寺由紀と申します。宜しくお願いいたします。

生まれは青森県です。津軽弁は、話すことがないためほとんど忘れているこの頃ですが、「へば」（それではの意味です）は、時々出ていると家族に言われます。

また、ねぶたの時期になると無性に帰りたいところがあるが、やはり自分は青森出身だからあつくづく思います。

看護学校からは、岩手で生活しており、今は世界遺産登録となった平泉に住んでおります。身近に世界遺産があるということで、先

日自転車で散策をしてきました。中尊寺の月見坂では、急斜面にもかかわらず観光客が多く、とても混雑していました。今までの杉の古木の静寂さとはまるで違う場所のようでした。世界遺産登録はやはりすごい影響だと改めて驚かされました。

平泉の中で私の好きな場所は、旧観自在王院庭園です。毛越寺に隣接する広大な史跡公園です。二代基衡の妻が造営したとされ、緑豊かな庭園に舞鶴が池が復元されており、とても心が和まされます。ボートとしているのが好きな私は日が暮れるまでいてみたいと思います。

東北新生園にも池や丘があり、四季の変化に富むとても閑静な自然に囲まれた敷地があります。

敷地内は、入居者の方々が常に手入れをし美しく保ってきたということを知り、歴史や思いがとても深いものだと思えて感銘を受け

ました。

また季節毎の行事や夏まつりなど、入居者や職員の心のこもった交流も多く、とても温かさを感じます。

私は以前、訪問看護という在宅での看護を行ってきました。在宅では、その方がその方らしく安心して生活できるということをモットーに務めておりました。様々な職種やサービスが連携して、その方を支えていくということとは、今も同様と考えております。

しかし施設勤務は初めてのため、大変ご迷惑をお掛けしております。

職員の皆様、入居者の皆様には優しく接して頂きとても感謝しております。

皆様のお役に立てるよう頑張りますので、これからも、どうぞよろしくお願い致します。



秋のバス旅行(定義山)
(平成24年10月19日)

随筆

互市の思い出

(昭和十四〜十五年)

今 野 きよし

A 息子 B 母親

A 母ちゃん今日ね、互市に行ってきた。

B 行く時、どこ行った？

A 長根から上坂戸を下って行った。

B 鳥居くぐってか？

A うん、くぐって行った。

B 鳥居くぐるの上からか、下からくぐったのか？

A ほんと、俺上からくぐったから逆になったのか。

B ほだべ、お前左利きだからな。

A 左利きで逆に歩くのか？

B そんな事ないと思うけど、いつも道具左手に持って仕事するからや。

A 歩くのも左なのか。

B 互市どうだった？

A 坂下って右側に呉服屋、左側に瀬戸物屋あった。

B 大きい声で売っていたのか？

A 大きな声で反物測って売っていた。

B 尺取り早くしていたのか。

A どうしてあんなに早く測るのや？

B あれはな、早くして大きな声出して上手に測っているんだとや。後で測ってみると短くしか無いんだってや。

A それから向かい側に十銭店があった。学生服を来た男の人が、ねばらない椿油も十銭、札もどんだん入る財布も十銭。白くなるクリームも十銭って言っていた。

B それからまだあったべ。

A それからもつとあったけども、覚えな

った。

B いろいろ見て来て良かったな。

A 床屋の前で青年団の人たち、りんご売りしていた。

B 隣の正美さんもいたか？

A 居た。真面目な顔をして売り方していた。ほだべ、母ちゃんその話聞いていたから互市さ行かないんだ。りんご買われるから。

A ほで、母ちゃん分かっていったのか。

B ああ、分かっていった。そのこと誰にも云うなよ。

A うん云わない。川向うの家の母ちゃんも買っついていかえんって言われて買わされていた。

B そうか、そんなところ見てきたか。

A それから少し歩いた所に飴売りの人いた。大きな袋から飴の長い出して、棒に掛けて伸ばしていた。

B ああ、そいつも見たのか。

A 見た。とても白くつてうまそうだった。

B ああ飴買って食うもんでないと。

A どうして買わない方がええの？とても白くてきれいでうまそうだった。

B 飴伸ばす時、鼻水付けて伸ばすと、飴の色が白くなるんだと、飴舐めると塩味したべ。

A うんした。

B ほだから買って食うもんでないと。

A 何も買うもの無いんだね。

B ほんだべ、布切れは寸法足りないし。飴は鼻水付けて伸ばしているし。

A 見物人いっぱい居た。銀行の前、一番混んでいた。すぐ近くに自警団の人たち三、四人警戒していた。

B 歩く時気を付けて下さいって云わなかったか？

A 云わなかったけれども俺らも安心して見

て歩いた。

B 近くの人達は喧しいから互市早く終わらないかって云っていたつけね。

A 近くの人達はそう思っているのか。

B そう云っていたの聞いたことある。

A 銀行の角曲がって行った所に、サーカスあった。

B 中に入って見たか？

A 外から見た。少し幕上げてて、ええ所で幕閉めてしまった。中からお客さんの拍子聞えた。

B ええところ幕閉めて見せなかったのか。

A 中さ入って見たいと思っただけだよめた。サーカスの前にいつまでも居るんでないと。

A なしていつまでも居ない方ええのや。

B サーカスの側に人さらい居るんだ。そうしてサーカス売ってやるんだ。ほだから子供も居たべ。

A うん居た。子供居た。女の子、小さい犬と芸やっていた。

B そうだべ、そして売られた子供も居るんだ。

A ほんで、うまそうな飴は鼻水入って、サーカスの側には人さらい居るって云うし。

B そうだ、それからまだまだあるんだぞ。互市にはほだから自警団の人が警戒しているんだと。

A 俺ら、早く帰って来てえがったね。

B そうだ、早く帰って来て皆んなを安心させて、それが一番だ。

A それから？

B 隣の母ちゃんと二人で天ぷら揚げて、帰って来るの待っていたから、皆んな早く帰って天ぷら食べながら互市のみやげ話語りするの一番だと思っっていた。これでおしまえ。

さらば昂よく牧実さんを送る

理事社団法人好善社 川崎 正明

八月二十一日午後、東北新生園の職員の方から、「牧実さんが二十日に亡くなられた」との訃報が飛び込んだ。急遽、大阪伊丹空港から仙台に飛び、東北新幹線「くりこま高原駅」前のホテル・エポカに宿泊して、翌二十二日午前八時四十分からの告別式に備えた。

告別式は「さくらホール」で、新城栄治郎氏の司会で行われ、故郷の岩手県からのお身内の方四人を含め、園長、自治会長、入所者、職員など約七〇人の参列者があったかと思う。私は牧さんと交流のあった訪問者として参列

したが、おそらくそのような外部者は他になかったと思う。私は深い哀悼の思いを込めて、登米市斎場での火葬、収骨、園の霊安堂での納骨まで全ての弔いの儀式に参加した。

ワークとカラオケでの出会い

霊安堂に納骨される時、私のところは哀しみと懐かしさにあふれて震えていた。この霊安堂こそが、私と牧さんとの出会いの場所だったからである。二十八年前の一九八四年、私は社団法人好善社が東北新生園で初めて実

施した「全国学生社会人キリスト者ワークキャンプ」に参加した。当時四十七歳で、ハensen病療養所に来るのは初めてだった。このワークは三年間続いたが、初めの二年間はこの霊安堂の整地作業だった。とても厳しい肉体労働で、私たちは入所者の皆さんと一緒にツルハシやスコップで土を掘った。このワークの指導者は、当時自治会の役員であった牧さんだった。後に、私たちが汗を流して整地したこの場所に立派な霊安堂が完成した。今その場所に、牧さんの遺骨が納められたと思うと感慨無量であった。

三年目のワークは、霊安堂の整地作業の際に運んだ残土の置き場のところに、「火防道路」を設けるための土木工事だった。ここでの指導も牧さんで、「土坡踏み」（どはふみ）など厳しい作業の指導は完璧だった。牧さんはこの好善社の三年間のワークを「一筋の道を作ると言うワークでしたね」と言われた。

この年のプログラムに入所者とキャンパーとの交流会があり、私は園内のカラオケグループ「みちのく会」との交流会に参加した。皆さんはとてもお上手でびっくり、キャンパーも何とか持ち歌を歌った。そして最後に登場されたのが牧さんで、ご自分で作ったテープを持ち込んで歌われたのが、谷村新司の「昂」だった。その熱唱ぶりは圧巻で感動した。実は当時、私の一八番がこの「昂」だったので、一緒に歌いたい衝動にかられたが我慢した。「火防道路」という一本の道を作った直後だったので、その「昂」の歌詞が印象的だった。

ああ いつの日か 誰かがこの道を
ああ いつの日か 誰かがこの道を
我は行く 蒼白き頬のままで
我は行く さらば昂よ
我は行く さらば昂よ

この時から、私の中で牧さんと言えば「昴」ということになった。園内のカラオケ大会のビデオテープを三本いただいているが、総合司会の牧さんの姿は実にダンディーで、独唱されるその声は甘く軽やかで歌唱力抜群だった。会場の看板やポスターも、すべて牧さんのアイデアと達筆による労作だった。

こだわりの「牧美学」

すべての面で細やかな配慮が行き届き、何事も完璧にこなそうとされる性格を、私は「牧美学」と呼んでいた。例えば、訪問した折に最初に出して下さるお菓子は「出逢い」、お別れの時は「旅立ち」という名がついていた。ちなみに、その他にいただいたお菓子の名前は「めぐり逢い」「逢うたび新鮮」「伊豆沼慕情」「伊豆沼―白い天使」「太古のロマン・原人の里」「雪の松島」「岩きり」「伊達の膳」「禁断の木の実」「スワントピア・旅立ち」といった具合だった。お酒では、

「夢あかり」「迫の清流」「北からの風」「天賞Ⅱ仙台ロマン」「北国の恋人」「星詩人」「上喜元」「栗駒山」「冬昴」「愛燦燦」などで、飲む前からそのネーミングによって酔いしれた。牧さんは、これらの品をわざわざ仙台市内に出かけて購入したり、遠方から取り寄せたりするこだわりがあった。毎年訪問して中央集会所に泊めていただいたが、台所の冷蔵庫はいつも満杯だった。私のために奔走して美味なる物を準備して歓迎してくださった。それらの品に付けられた、夢、旅、星、雪、恋、愛、慕情、詩、風という言葉のイメージから、牧さんがいかにロマンチストであるかが想像できた。ここに客を完璧にもてなそうとする「牧美学」の真骨頂があった。

その絆は兄弟のように

昭和五年生まれの牧さんは、八十二歳での生涯を全うされた。東北新生園に昭和二十

三年に入所、六十四年間の在園生活だったと伺った。前述のように、私は二十八年前に初めて牧さんと出会ったが、その後毎年訪問を続け、特に三つのキリスト教会の皆さんとの交流をさせていただいた。訪問に際しては主として牧さんと連絡を取り合ってきた。その折りにいたたく牧さんのお便りやスケジュール表は、いつも達筆で行き届いた内容だった。

また、私の亡き兄も昭和五年生まれだったので、何だか牧さんを兄のように思えた。お互いの誕生日（牧さんⅡ一月十二日、私Ⅱ二月十日）には、毎年祝電やお祝いのカードを交換し合った。それらの二十八年間の手紙やカードなどの全てを保存している。肉親ではないが「似たもの兄弟」のような感じで、几帳面な性格、ロマンチスト、歌ではポップスが好き、バイクで転倒して怪我をしたり、糖尿病を患ったりと、その生き様に共通点が多かった。

一九九五年の阪神淡路大震災の時や、二〇

〇二年に私の妻が亡くなった時には、言葉で言い尽くせないほどの励ましと慰めをいただいた。また、しばしばご家庭に招かれて、ハツエ夫人の手料理をお腹が一杯になるまでご馳走になった。その最愛のご夫人が昨年一月に亡くなられた時は、本当に残念で悲しかった。葬儀に参列できなかったので、弔電で追悼の意を表した。さらにお悔やみの手紙を出したが、しばらくして福祉室の職員に託した電話でお礼の言葉をいただいた。

牧さんの信仰―教会代表として

牧さんとのもう一つの大きな絆は、キリスト教の信仰であった。仙台市に本部がある日本新生基督教会に属する「新生園伝道所」の信徒代表を三〇年以上も務め、心血を注いでその責任を果たされた。日本キリスト教団の牧師である私は、毎年の訪問時には園内の三つの教会との交流の中で、懇談会や礼拝説教をさせていただいた。ある年、牧さんのお宅

で夕食をいただいた時、一つの約束をした。それは、牧さんの葬儀の司式を私がすること。その時の讃美歌は四九六番の「うるわしの白百合」を歌うことであつた。しかし、結果的にはその約束は実現しなかつた。

二十二日の告別式で、日本新生基督教会の佐々木光司氏がその式辞の冒頭で、「牧実さんは個性的で癖も多かったが、とても心豊かな人だった・・・」と語られた。「個性的で癖も」という言葉が微妙に気になったが、その表現は私を感じていた「牧美学」に通じるのかもしれないと思つた。佐々木氏の式辞の続きは、牧さんの人間性と信仰を最大限にたたえる内容であつた。

しかし、私は祭壇に置かれた牧さんの遺影を見ながら、その晩年の牧さんの様子を思い出していた。怪我で入院されたり、とりわけハツエ夫人を亡くされた頃からの牧さんの体調は、心身ともに厳しい状態だつたらしい。昨年十月三十一日に病棟の牧さんを訪ねたの

が最後となつたが、その時はあの完璧な牧美学のお姿ではなかつた。数年前からお手紙もカードも電話も無くて、その変りように驚いていた。しかし、それはご病気によることなので仕方がないので、それまでのお互いの交流の果実を糧としながら向き合つていこうと思つていた。

牧さんが逝くゝさらば昂よ

告別式で思つたことをありのままに告白すると、その司式を私がさせていただき、式辞を述べたかつた。そして、「うるわしの白百合」の讃美歌四九六番を大きな声で歌ひかつた。さらにもつと言えば、牧さんの棺の前であの谷村新司の「昂」を声高らかに歌ひたかつた。

折しもこの日、牧さんの死亡で東北新生園の入所者は一〇六人になつた。私が二十八年前に初めて来た時はちょうど四〇〇人だつた。九月七日には、これまでの新生園での永眠者

八〇〇人の慰霊祭が行われると聞いた。全国のハンセン病療養所は、今まさに終焉期を迎えており、牧実さんも終焉の舞台を降りて、新しい世界へと向かう旅人となられた。

収骨のために同行した登米市の斎場で、ご親族の方から生前の牧さんのベッドサイドにあつたファイルを見せてもらった。その中には若き日の牧さんご夫妻の素敵なツーショット写真や牧さんが詠まれた川柳を記した短冊が挟まれていた。

岩手には岩手の花よ美人妻

恋心ひめておどつた晴れ姿

太々と若さがはねる盆の月

笑い声豊かにのせて夏送る

花、美人、恋心、晴れ姿、若さ、笑い声という言葉から、本来の牧さんのお姿が浮かんできた。ロマンチックで明るいフレーズで、「岩手の花よ美人妻」や「恋心ひめておどつた晴れ姿」は、ハツエ夫人のイメージだろうか。かつて仙台空港から乗つたりムジンバスの

中で聞いた、牧さんもお好きだつた仙台出身のさとう宗幸が歌う「青葉城恋歌」を思い出す。「♪時はめぐりまた夏が来て：あの人はもういない」というフレーズが、故人となられた牧さんと重なる。新生園でかわりを持たせていただき、今は天国の人となられた多くの方々のお顔も同じである。深い鎮魂の思いをささげたい。

牧実さんとの出会いは、私にとってハンセン病問題とのかかわりの原点となっている。牧さんから多くのことを学び、励ましをいただいた。今はただ、神様の御許で安らかに眠つていただきたい。

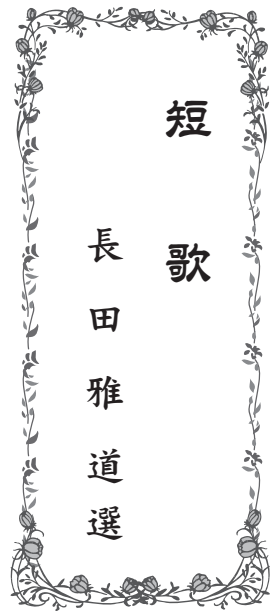
ああ さんざめく 名もなき星たちよ
せめて鮮やかに その身を終われよ

「さらば昂よ！」と、牧実さんを送る言葉
としたい。

(二〇一二年九月二〇日・記)

短歌

長田雅道選



◇ 入 選 ◇

寮を出て会館までの数メートル我が外
氣に触るるひと時 佐藤 つや子

【選評】 目の不自由な作者の鋭い感覚が
読みとれる一首だ。歌の素材はど
こにでもあることが思い知らされ
た秀歌だ。

大房のさがれる様を描きつつ種なし巨
峰をゆつくり頂き
カセットに野鳥の声を流しつつ思いを
春の野山に遊ばす

今野 きよし

Nさんの植えたる柿の熟しおり今年も
楽し干し柿作り
方言をたくみに使う看護師の話につら
れ笑いこぼれる
時々方言話す看護師のいつのまにや
ら笑の中に
遠くにはいかないうちにと諭されて心
づかいのうれしくなりぬ
荒れ果てし休耕田にこおろぎの鳴く声
聞こえ安らぎ覚ゆ

今野 きよし
稲掛けの農夫の首の日やけして手先器
用にどんどん進む

【選評】 稲掛けの仕事にもくもくと励ん
でいる農夫をいきいきと表現して
いる。首の日やけに注目したのは
さすがだ。

◇ 佳 作 ◇

巨大なる生き物のごとし十七号台風の
動き刻々と聞く 佐藤 つや子
軍事歌謡聞きつつともに歌いおりただ
懐かしく違和感もなく
認知症の母看取りいる姪より贈り物来
ぬ敬老の日今日

俳句

山田桃晃選



◇ 入 選 ◇

今野 きよし
直播きの稲田に稗の五六本

【選評】 今年の稲は豊作で見事である。
直播きも見事出揃い稲穂となり、
その中に背伸びして居る稗の穂に
目が集中。昔の主食、粟や稗。人
間が存在する限り絶える事がない
穀物は民の宝である。

秋の田やどこもかしこも頭たれ
斎藤 照雄

【選 評】 この夏の猛烈な暑さに誰もが地球の異変を感じたに違いない。日頃は何も感じない大崎耕土の広さが、黄金色に輝き、順調の実にわれも頭がたれる喜びがあり力強い。

風鈴の音色惜しみつつ桐の箱
千代田 秀夫

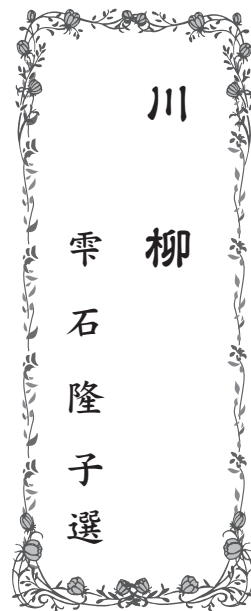
【選 評】 焦点を音色に絞った簡潔な表現と見える。さて、どんな風鈴が南部風鈴、ガラス風鈴等々自然と人生、日常の中で感じたところを素直にさりげなく詠いあげた技量、桐の箱が生きている。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし
補聴器をかけて佇む虫の声
稗の束畦に乾きて豊の秋
黒猫のゆっくり潜る草紅葉
隅刈りの鎌の忙しく豊の秋

斎藤 照雄
柿赤くうれたる径を試歩返す
試歩返す径と云う径菊香る
コロギの音に起こされし夜半の月
日の暮れた舞台せましとたきぎ能

千代田 秀夫
孫食べて婆がみているかき氷
消防士すだれの陰のかき氷
真夜中に秋を聞いている古ベッド
風鈴の音色に集う盲かな



◇ 入 選 ◇

《人》 桜山南仙
本当の言葉がのどの奥にある

【選 評】 本音はなかなか口に来ず、建前ばかりが先行する。これも処世術の一つではあるが、どうもおなかの中はしっくりしない。吐き出せないものの辛さが、作品になったのであろう。

《地》 桃生 小富士
紅葉散らす風は妹かも知れず

【選 評】 二万人近い人々が犠牲になった大震災。予期せぬ別れは、悲しみも辛さも一入のことであろう。風に翻る紅葉の赤は、在りし日の妹さんを偲ぶ色である。復興、再生の掛け声と共に、犠牲者を悼む心も忘れたくない。

《天》 今井 青風
インクつば空になるまで生むのです

【選 評】 「インクつば」には、昭和への郷愁がある。インクつばが空つばになるまでの創作意欲。詩こころの旺盛なさまが一句になったのであろう。ポエジーのたつぷりと効いた秀句である。

◇ 佳 作 ◇

今 野 きよし

雷に深い眠りをゆさぶられ
デザートのまんじゅうこわい太りすぎ
年ごとに記憶薄れてがっかりし

斎 藤 照 雄

夢抱けばどこか明るい生活くらし向き
古くとも負けて勝つ手は捨てまいぞ
また明日頑張るたづなしめておく

桃 生 小 富 士

再稼働どこが責任持つのやら
人住めぬ故郷の海も哀しかろう
千の風ガラスを叩く君がいる

千代田 秀 夫

大百足の足を羨む車椅子
復興の掛け声はるか秋の風

桜 山 南 仙

山彦が帰ってこない年とし齢になり
花すすき何を待つやらつんとして

今 井 青 風

失った大きなもので過食症
私の匂いはたぶん昭和です

詩

※今回入選の該当者がなかった為、
編集部自薦として掲載致します。

《干し柿》

今 野 きよし

物干し竿に四十連
陽を受けて
黒み増す
干し柿見たく
朝早く
物干し竿に
目を向ける
昨年も干し柿頼み
Kさんに
今年も頼んだところ

私の頼み心良く
四、五日前に大策に
きれいにむいて
持って来た

干し柿作り

一昨年に

始めたばかり

柿を買い

皮むきはかどらず

昨年も柿用意して

皮むき始めたところ

介護員の目に止まり

刃物使って

危ないとそれで頼んだ

Kさんに今年も頼み

早速竿に

干してくれた

よろしくお願ひします

看護助手 富田由美

平成二十四年一月四日より看護助手として
お世話になっております。

私の出身は宮城県登米市です。車で約三〇分ほどの豊里町から通っています。皆様はあまり豊里町についてご存知ない方が多いと思いますが、隣接している米山町、登米（とよま）町、津山町、桃生町（石巻市）、涌谷町などに囲まれた自然豊かな町です。

南三陸道を利用すれば石巻市も近く仙台方面の交通も便利なところです。豊里町は有名な娯楽施設やショッピングモール等の大きいビルはありませんが、お薦めのスポットをいくつか紹介したいと思います。

す。ソフトクリームもおすすめですよ。…と町の宣伝をしてきましたが、時間がある時は是非お立ち寄り下さい。

私の趣味は映画観賞です。家族で時々観にいったりもしますが一人でも行きます。最近『ツナグ』や『最強のふたり』を観てきました。義母の影響で韓国ドラマも見ることが増えました。有名な冬のソナタや天国の階段は皆様もご存じかも知れませんが、宮廷女官チャングムや、イ・サン等、韓国の文化や歴史に興味がない方でも共感できる部分があると思います。

ここで我が家の不思議な現象についてお話ししたいと思います。我が家の庭には小さな畑があります。私自身、ただ雑草を取っているだけののですが、種をまかないのに不思議に次から次へと新芽が出てきて時が経って気付くと様々な野菜が実っています。キャベツにじゃがいも、かぶ、きゅうりになす、とうも

まずは豊里町と米山町にまたがる沼、『平洞沼』春の桜並木の美しさと夏の蓮の花が咲く時期には木陰を散歩しながらのんびりと歩くには良い所です。また、釣り好きの方にも楽しんでもらえる場所もあります。主にバスやフナが釣れるそうで大会も行われています。そして、小さな町の一角には、かいてん焼き（今川焼き）の美味しい店があります。駐車場が少し離れた場所（東へ三十メートル）にありますので、くれぐれも車でお越しの際は専用駐車スペースをお願いします。かいてん焼き屋から北に向うと店舗があります。『小新堂てらさわ』ケーキやクッキー、和菓子やパン等…作りたての揚げ饅頭はとってもおいしいですよ！それから程なく生活雑貨とカフェの店『リトルステップ』個性的なかわいい雑貨があります♡ドライブの途中休憩の場所としてコーヒーとケーキを食べながらリラックスした時間を過ごすには良い場所です。

ろこしに枝豆、サトイモに大根、白菜、ピーマンと人参等々、おかげさまで新鮮な野菜を収穫し食べる事ができます。季節の野菜を届けてくれる魔法の畑さん！ありがとうございます。

最後になりましたが、新生園に勤務することになり、十カ月が経ちました。まだまだ学ぶべき事がたくさんあり、日々入所者の方々、諸先輩方に教えていただく事がとても嬉しく勉強になります。これからも毎日楽しく仕事を続けていけたらと思っています。よろしくお願ひ致します。



園内風景



▲慰霊祭
(平成24年9月7日)



▲新田中学校音楽交流会
(平成24年9月19日)



▲第10回少年少女野球大会
(平成24年10月7日)

はじめまして

看護師 今野 信子

四月から東北新生園に勤務しています、看護師の今野信子と申します。

看護師になって、すでに定年に近い年齢での再就職。不安で不安での再出発になります。私は岩手県からの通勤です。なんでそんな遠方から…？と思われるのも当然ですが…。年に不足はないのですが、朝我の表情の硬さに鏡の前で「おはようございます」と挨拶の練習をして出勤したこともありました。けれども、通勤時間が長い分、通学路での子供達が大きな声で「おはようございます」と帽子をはずして頭を下げて、横断歩道を渡って行く。すがすがしい笑顔に緊張も払拭

できました。時には、猫ちゃんが突然無断で道路を横断した時は、ダメでしょう！怪我するよ…なんてひと言。通勤しながらも、視界からの刺激を受けながらの通勤です。東北新生園には、見学で二度寄せて頂いた事がありました。その時思い出しましたが、緑がきれいで、広大な園内の印象を今でも思い出します。

今回、勤務させて頂き、広大さに日々驚いているところです。

ある日突然師長さんに、今野さん自転車に乗れるよね？とこれから自転車で行くから。内心「えっ！嘘でしょう？」自転車なんて中学校時代しか乗った事がないのでした。乗れないと言える状況になく、自転車に乗って、転倒覚悟で師長さんの軽やかなペダル捌きに必死に追いかけた事を思い出します。久々の自転車の感触と転倒しないで戻れた事に心ではホッとしたあの日の勤務の一ページでした。まだまだ何かと不慣れで、迷惑をかけるこ

とが多々あると思いますが、入所者の皆様にも職員の皆様にも優しく接して頂き感謝しております。

少しでも皆様のお役に立てますよう人間力を身につけ、皆様に喜んで頂けるよう努力し

てまいりますので、廊下等でお会い出来ました時には、どうぞ声をかけて下さい。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

孫とおばあさん

今野 きよし

A 孫 B おばあさん

A あばあさん、この間運動会するとき、走るの早かったね。

B そんなに早かった？

A 早かったよ。足が早くて足見えなかったもの。

B そんなに早かったのか？

A だって一番だもの。

B そうね、一番だものね。

A おばあさんは一番で、ほかの人たちはずっと遅れたもの。二番目の人離れたもの。あの時は孫とおばあさんの組だったね。

B それは珍しいね。そういう話はじめて聞いた。

A 運動会の話から由利ちゃんの話にそれってしまったね。

B それから運動会の時何かあったの。

A あの時踊りもあったの。良かったと思っ

B どうしてそういうこと思ったの？

A 私ね、幼稚園のとき、おばあさんの唄に合わせて踊り踊ったって云ったよね。

B 私の唄に合わせて必ず踊ったもの。とっても上手だったよ。きれいに指を伸ばして。

A 指を伸ばして踊るの上手なの。

B 踊りはね、指先を伸ばして指の先を目で追いながら踊るのが上手なんだよ。

A それ誰に聞いたの？

B 何でも知っている隣のおばあさんに聞いた。あんた位の時に。

A それではなんでも隣りのおばあさんに教

A 由利ちゃんのお母さんは走るのうんと遅いんだって由利ちゃん云ってた。

B そんなに遅いの？どの位なの。

A おばあさんの半分位だって。

B どうしてそんなに走れないの？

A 由利ちゃんのお母さんね、七十キロあるんだって。

B それはすごいね。

A 気持ちは優しくて力持ちなんだね。

B どういうふうに？

A 三十キロの米袋を両脇に軽々とかかえて、さっさと歩くんだって。

B それはすごいね。気持ちは優しく、力持ちか。

A そう云っていた。由利ちゃんのお母さんは怒ったりしないんだって。いつも優しく語って聞かせるって。

B それは良いお母さんだね。

A お母さんは七十キロ、お父さんは五十五キロなんだって。

B えて貰ったの。

A 年寄りだからって嫌わないで、話は良く聞くようにと教えられたの、子供の時に。

B それでは隣りのおばあさんはなんでも教えてくれたんだね。

A よその家、子供でも分け隔てなく教えてくれたの。

B 今はよその家の子供には教えてくれないの。

A 教えてくれる人も居るかもしれないけれども、少ないと思う。悪い事をすると叱られたこともあった。

B 叱られたら、それから会わないようにしたの？

A そんなことしない。隣のおばあさんにうんと甘えた。何でも聞くようにしたもの。

B それからどうなったの？

A それからね、おばあさんは前よりもかわいがってくれた。お母さんの帰りが遅い時はいつまでも遊んでくれた。

A それではおばあさんを家の孫のようにしてくれたのね。

B そうよ、そうしてね夕方遊び飽きて、眠くなると床をしいて寝かせてくれた。

A おばあさんが今私にしてくれているように可愛がつてくれたのね。

B 私はね、幼稚園に行けなかったけれども、今の幼稚園のように、何でも教えてもらった。

A 昔はそうようにしてくれたことを何と云ったの？

B 『助け合い』というのかな。今はボランティアと云うそうだね。

A おばあさんの話を聞いているうちに大人になったら踊りを踊って、慰問に行きたくなった。

B それは良い考えだね。

A B そうでしょう、私もそう思うもの。その時はおばあさんは唄を歌ってね。

B おばあさんのお得意の唄は北上夜曲なの

A よ。

A どういう唄なの？

B 古い唄だから忘れたところもある。一生懸命練習して流れるように唄うからね。

A 私はうんと勉強して、早く大人になって働きながらボランティアにおばあさんと一緒に行くからね。

B ああ、私も楽しみにして待っているからね。

A ああ車の音する。

B プッププッって来たからおじいさんの車だな。

A おじいさん、おみやげ買って来たかね。

B 今日だね、仙台に行くって云っていたから珍しい物買って来たんでないの。

A おばあさん、どうもありがとうございます。

B 私もよ、ああ楽しかった。

— 平成十年十月二十一日記 —